

2010年2月11日 平和フォーラムの講演レジュメ
東アジア共同体と日本と中国

莫 邦富

現状認識： 避けて通れない中国要素、

1. 二強時代の訪れとアジア秩序への影響
2. 中国経済の勃興と雁行経済モデルの崩壊
 - 垂直経済分業による雁行経済モデル
 - 「大魚喫小魚」→「快魚喫慢魚」
 - 二強時代のウィンウィン関係の樹立とそのモデルの模索が必要。
3. 民主党政権の誕生と東アジア共同体の提唱
これまでの日本はアセアンとFTAに無関心。
「中国を落とせば、日本は落ちる。日本が落ちれば、韓国は落ちる」
4. 東アジア共同体の実現に対する対価
モノ、マネ、ヒトの移動と交流。日本は心構えができているのだろうか？
5. トヨタのリコール問題と新しいビジネスモデルの樹立の必要性
6. 民間同士、国民同士の本格的な交流が始まろうとしている
海外を旅行した中国人旅行者数：06年3500万。08年4600万人。
日本を訪れた中国人観光客数：07年初めて90万人を突破（過去最高の94万3千人）。08年で100万人へ。
07年、香港を訪れた訪問客は2817万人（中国本土客が1548万人で、初めて1500万人の大台に乗った）。
「出境遊（海外旅行ブーム）」、「自由行（個人の海外旅行）」などの新語が中国国民の日常生活に定着
国際観光機関（UNWTO）の予測によれば、2020年には海外旅行をする中国人は年間1億人規模に達するだろうという。
中国人大航海時代が始まるのではないか？→日本にとっては大きなビジネスチャンス
7. 中国人ないしアジア人の消費力
シンガポール、香港、台湾……中国本土客
8. 日本人は自らのよさと魅力と課題を再認識すべきだ。
「前へ進まない」、他人に学ぶ意識がなくなった今の日本人。